

す。

こういつたことで航空防除の面積も急に  
広がり、三十六年の二十七畝から、翌年  
の三十七年には、一挙に七千七百畝にな  
り、そして今年、熊本県全体でおよそ  
八万畝にわたるヘリコプターによる害虫  
防除が計画されるまでになっています。  
この、ヘリコプターによる航空防除  
は、これから、九月上旬まで行なわれま  
す。

最近、このようにヘリコプターを使っ  
て、病害虫の防除から、除草、たねまき  
などすべての農作業をする研究が進めら  
れており、これが成功しますと、「空か  
らの米づくり」が、夢物語でない時代に  
なることでしょう。実際、そういった方  
法をとっている県もあるようです。

また、今日は午前九時から、農協会館  
ホールで、去年に引き続き第二回目の市町  
村長会議が開かれました。

この会議は、熊本県内の各市町村長、  
それに知事、副知事、出納長以下、企業  
局長、各部長など県の幹部が、本年度の  
県の事業の進め方や考え方を説明し、ま  
た意見を交換し合って、行政をスムーズ  
に進めていくのに役立つために開かれ  
たものです。

熊本県政のあゆみ(第一回)

4月20日(火)送  
4月放

物産紹介「蜂蜜を追って」

「一島まんまと蜂に住まれけり」一茶。  
暖かくなるにつれて、花の間を蜜蜂が  
忙がしく飛びかいはじめます。

熊本県内で今年蜜蜂を専門に飼う人  
は、県外から来ている人も含めて、百七  
十二人います。また、女王蜂を中心にし  
て、およそ一万匹の働き蜂が集ったのを  
「一群」といいますが、これが県内にお  
よそ一万群あります。

一群で、一年間の採みつ量はおよそ  
五、六十キロになりますが、これを金額  
にしますとおよそ二億円の収入が見込ま  
れることになりました。

ところで蜜蜂を飼っている人たちは、  
早春から咲く「茶の花」にはじまって、  
時期折々に咲く花々を追って、いわゆる  
ジプシー的な生活をして暮らします。

熊本県内の業者達は早春から四月頃ま

毎週、火曜日のこの時間は、熊本県政  
の歴史をふりかえってみることにしまし  
た。

まず今日は、その最初として、熊本県  
政の成り立ちからみましょう。

明治四年に、日本の政治の形が、それ  
までと大きくかわる事が起きました。こ  
存じの薩藩置県といわれるものです。

これは明治二年に行なわれた、全国の土  
地と人民を天皇におかえししようとい  
う、いわゆる版籍の奉還から、引続いて  
進められてきたもので、政治の権力を統  
一しようとするための改革でした。つま

三月九日放送

では、「茶の花」の蜜を求め、五月から  
六月にかけては、飽託群の河内芳野村や  
小天などの、「みかん」の蜜を求めて移  
動します。それから七月頃にかけては、  
球磨郡一帯の田んぼを自然の織たんで埋  
めつくした蓮花草が、蜜蜂を呼びます。  
そして暑い盛りの八月には、阿蘇で夏  
越しをします。とくに阿蘇独特の「萩」  
の花の蜜は、全国でも二カ所だけしかと  
れない貴重なものなんです。とい、ますの

は、萩の花の蜜は、標高千三百メートル  
の所でなければ採れないそう、これは  
球磨郡の蓮花草がたいへん蜜源が多いこ  
ととあいまって、熊本県の蜂蜜の花の二  
つの大きな特色といわれています。

九月初めから十月頃には、菊池郡や植  
木台地の「そば」の花を求めて移動し、  
その後、宇土半島や日奈久町、天草の芥

り、それまでの領主がなっていた知藩事  
をやめさせて、新しい人を選んで知事に  
任命するという内容をもっていたので  
す。

この薩藩置県の結果、肥後では熊本藩  
と人吉藩が廃止されました。そして新し  
く熊本県と人吉県が置かれたのです。こ  
れは明治四年七月のことです。

これで、細川氏による二百四十年にわた  
った肥後の支配も終わりを告げたのです。  
そしてさらに、明治四年の十一月に  
は、改めて熊本県と八代県が置かれまし  
た。

北地帯の「ヒワ」の蜜の採集に移り、こ  
こで冬を越します。

もちろん、これは一般的な場合で、  
普通は蜜蜂を飼っている人の希望で移動  
します。といっても巣箱を設置する場所  
は、あらかじめ、県へ飼育届をだし、調  
整が行なわれます。

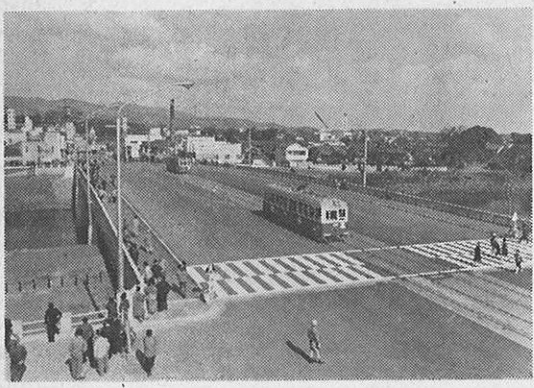
つまり、蜜蜂は普通、巣箱を中心とし  
て、半徑四十メートル程度の守備範囲をもつて  
いるのだそう、その範囲内に沢山の業  
者が一緒にはいりこみますと、蜜の採集  
に影響し具合が悪いからです。

ともあれ蜂蜜は、各種の食糧品になる  
ほか、薬品にも用いられ、みつろうはポ  
マード、口紅など化粧品に使われその  
他、ロイヤルゼリは医薬品などにも利用  
されています。

これに伴って熊本県庁は、初め花畑町  
の、もとの藩庁の中におかれましたが、  
次いで城内の二の丸に移ります。明治五  
年の六月には、熊本県が白川県と改めら  
れ、県庁は二本木に新築されました。

そして、この年、明治天皇の行幸があ  
りました。ところが、その時宿舎をどこ  
にしたらよいか、県庁ではたいへん頭を  
悩ましたといわれています。

その時の模様を、熊本日々新聞が発行  
している、「熊本の歴史」は次の様に伝  
えています。  
「まず白羽の矢を立てられたのが、洋



学校教師ジェインズの官舎であった。最  
新式の洋風の建物である。しかしジェイ  
ンズは反対している。大いに光栄に存  
じますが、外人の官舎を陛下のご旅館に  
供したといわれましては日本帝国のため  
に恐れ多く、かつ陛下のみ、いつにもひび  
きましよう」  
当時の熊本県の歓迎と、慌てぶりが目  
に浮かんでくるようです。  
こうしたことがあった翌年の明治六年に  
は、白川県と八代県が合併し、白川県に  
なりました。そしてこの年の五月、安岡  
良亮が権令、(今の制度で申しますと副  
知事に当りますが)として熊本に赴任し  
てきました。  
安岡権令は、時の内務卿、(これは今の

大臣に当ります)大久保利通に、その手  
腕を買われたもので、熊本に来た時の仕  
事は二つあったといわれています。  
一つは政府へ反対する行動に、いつ踏み  
切るかわからない尊王攘夷を旗がしらに  
する敬神党という党派への対策。そし  
て、もう一つは、中央政府の考え方と対  
立するまでに、急進的になった実学党と  
いう党派の対策でした。そして、安岡権  
令は、実学党の人たちを県政から追い払  
うことに成功しました。いわゆる熊本県  
としての政治ははじめられたのはそれか  
らでした。  
明日から  
大甲橋がご利用願えます  
3月31日(水)送  
3月放

熊本市の中心部と東部地区を結ぶ県道  
のなかめ、大甲橋は三年ごしの架け替え  
工事を終り明日の午前九時半から渡り初  
めが行なわれます。  
三十七年八月に架け替え工事にとりか  
かっていたのは、市民の方、特に車を運転  
される方には回り道をしていただくな  
ど、皆さんに随分と迷惑をおかけしま  
した。  
しかし、明日の正午からは、今迄の不  
便も解消されることになりました。  
ところで、大甲橋が新しくなるのを  
機会に、この橋をご紹介しましょう。  
この大甲橋が最初作られたのは、大正

十三年でした。その時は、熊本市電の水  
前寺線のための橋として作られる予定で  
したが地元など、民間の人達の熱意で、  
長さおよそ七十四メートル、幅十四・五  
メートルが作られたわけだ。  
二十八年の大洪水の時にも、橋ゲタは  
ビクともしませんでした。これは、か  
えって逆効果になり、水の流れをせきと  
め、橋から上流の被害を大きくしてしま  
いました。  
また、架け替え工事の前には、三輪車  
以上の車が一日に二万台近くも通って  
いましたが、橋の幅は電車の路線も含め  
て、わずか十四・五メートルということで、  
車が混雑しました。  
そこで、今度の改修工事になったわけ  
ですが、およそ六億一千三百万円の経費  
をかけて完成した新しい大甲橋は、災害  
にそなえて、高さも河床から十六メートル  
あり、長さも、もとの大甲橋より三十二  
メートル長い百六メートルになっています。  
ですから二十八年の洪水の時と同じ水  
かさになっても、余裕をもって水が流れ  
るようになっています。  
また橋の幅も、前より十七・五メートル  
広くなって、二十六メートルの車道を中  
に、両側に三層の歩道をつけています。これ  
で交通の混雑もかんわされることになりま  
す。  
工事現場附近の人たちには、特に工事  
中はご迷惑だったと思います。  
明日の正午からは新しくなった大甲橋

画図湖田地造成の

起 工 式

3月24日(木)送  
3月放

今日、午前十時から江津湖団地を作  
る、起工式が、画図町で行なわれまし  
た。  
これは、画図町江津から出水町長溝に  
いたる百五十七万平方メートルの宅地を造ら  
うというもので、今年の八月頃には、この  
工事を終る予定になっています。  
ところで、熊本県内の住宅不足数はお  
よそ二万五千戸で、その内、熊本市内  
は、およそ一万八千戸の住宅が不足して  
います。  
家を建てたくても宅地が見付からな  
い。またやと宅地が適当なところに見  
付かっても土地の値段が、あまりに高  
すぎて手がでない、というのが住宅にお困  
りの方の共通した悩みになっているよう  
です。

熊本県では、これまでも県営住宅や建  
売住宅、分譲住宅などを建てて、住宅難  
を緩和しようと努めてきました。江津湖団  
地計画も、その一つです。  
この工事は、上江津湖の一部を浚渫船  
で二層から三層半にわたって掘り下げ、